

## 茶畑で実証された営農優先のUIソーラー架台 「太陽業」を支え、農家の未来をともに描く

富士山の裾野に広がる美しい茶畑。そこには、太陽光パネルが当たり前のように設置されている。太陽光黎明期から農家主導の挑戦を続けてきた後藤さんは、何を思い、どんな設備を選んできたのか。後藤さんの事例をもとに、営農型太陽光発電向け架台のあるべき姿を深掘りする。

写真/山本典義(一部、後藤さん提供) 取材・文/廣町公則



パネルが放射冷却を抑えるので  
茶葉の大敵・霜が降りることもない。



スパン4.5×4.5m、有効高3m。  
広いスパンと高い支柱で、農業機械の作業も容易。



玉露のための寒冷紗(遮光幕)も  
架台のおかげで簡単に設置できる。



この溝にワイヤー金具を固定。  
高さ調整も自由自在だ。



シンプル構造で、軽量のアルミニウム部材。出荷前に仮組立て済みで、詳細な施工ガイドが付いているので、一人でも施工できる。

1.後藤さんが運営する営農型太陽光発電の1つ。約10aの茶畑に80kWの太陽光パネルが設置されている。2.営農型太陽光発電架台は、茶畑の寒冷紗(遮光幕)を設置する支柱としても機能する。3.「UIソーラー」の架台なら溝にワイヤー金具を固定できるので、茶畑の寒冷紗やブドウの棚線(写真)も簡単に設置できる」と後藤さん。4.この春に作付けを開始する新しい圃場。ここでもUIソーラーの架台が採用されている。5.シャインマスカットでも営農型太陽光発電を実施。太陽光パネルは雨除けにも役立っている。

### 先駆者が選び続ける UIソーラーの営農型架台

静岡県富士宮市で3代にわたってお茶づくりに取り組む後藤さん。10年前から営農型太陽光発電を実践してきた、この地域の先駆者だ。現在、運営する圃場のうち、15ヶ所に太陽光発電設備を設置している。

発電設備の設置場所を徐々に増やしてきた後藤さんは、これまでさまざまなメーカーのパネルや架台を試してきた。そんな後藤さんが近年立て続けに採用している架台が、UIソーラーの製品だ。

UIソーラーは世界累計10GW、日本国内でも3.5GWの設置実績を有する架台メーカー。2014年からは、営農型ソーラー架台に特化した製品開発を行っている。「農業生産の最適化を第一に設計する」という理念のもと、多様な製品パリエーションで各種農作物への最適化を図っている。

### 農家主導の取り組みを支える 農業を知る架台メーカー

後藤さんが評価したのも、まさに、農業第一の理念であり、それを具現化した製品設計と柔軟なカスタマイズ対応力だった。

「営農型太陽光発電は農家自身が行わないと意味がありません」と後藤さんは話す。一口に営農型

向上に直結します。パネルがない場所と比べても収穫量はほとんど変わりませんが、むしろ高単価で売れるお茶が育つので、農業収入もアップします」と後藤さん。

加えて、UIソーラーの架台には、高単価茶葉の栽培に役立つ設計上の特長があった。

「玉露や抹茶の原料となる碾茶は、寒冷紗という布で覆うことで旨味成分を引き出します。この布を設置する支柱として架台が使えます。UIソーラーの架台には溝があるので、そこに寒冷紗を張るワイヤーの金具を簡単に取り付けることができます。高さも調整可能なので、必要な位置にすぐに設置できて助かっています」

### 現場のニーズに柔軟に対応し「太陽業」の挑戦をサポート

後藤さんは現在、お茶だけでなく、シャインマスカットの栽培も手掛けている。実は、その土地も当初は茶畑として利用する予定だった。しかし、道路拡張の影響で畑の面積を小さくせざるを得なくなり、より収益性の高いシャインマスカット栽培に変更したのだ。

「架台は茶畑用として発注していたのですが、シャインマスカット用に支柱の高さを変えるなど、いろいろな変更を施しました」

太陽光発電といっても、発電事業は外部の業者が担っているケースも少なくない。しかし、「それでは得られるメリットも限定的であり、もったいない」。農家が主体となって取り組んでいくことが大事なのだ。その考え方の延長線上で、架台メーカーにも、農業を理解しているかどうかを厳しく求めた。

後藤さんは、もともとITエンジニアとして働いていた異色の経歴をもつ。その知見を活かして、作物に必要な遮光率や農業機械の動線进行分析し、お茶の栽培に最適な架台を自ら考案した。そして、そのアイデアを無理なく形にしてくれたのがUIソーラーだったのだという。

UIソーラーは強力な技術チームを有しており、10年以上の設計経験のもと、JIS基準やガイドラインを厳守し、顧客の要望に柔軟に対応している。同社の架台は、杭基礎の耐荷力、梁・柱およびブレースの耐荷力、構造全体の安定性にも秀でている。

### 細部設計の工夫が生きる 作物の品質を高める設備

茶畑において、営農型太陽光発電設備は売電収入を得るためだけの道具ではない。

「お茶の種類によっては、太陽光パネルによる適度な遮光が品質の道具ではない。茶畑において、営農型太陽光発電設備は売電収入を得るためだけの道具ではない。茶畑において、営農型太陽光発電設備は売電収入を得るためだけの道具ではない。茶畑において、営農型太陽光発電設備は売電収入を得るためだけの道具ではない。」

「新しい作物に取り組む場合、収益が出るまでに時間がかかります。しかし、営農型太陽光発電なら翌月から売電収入が入ってきます。そのおかげで、リスクがあっても挑戦できるようにしました。そして今、この挑戦には、農業のことを分かっている、臨機応変に対応してくれる架台メーカーの存在が不可欠だと実感しています」

そう語る後藤さんにとって、農業と発電は別々の事業ではない。「作物も太陽の光で育ち、電気も太陽の光で生まれます。だから私は、この仕事を、太陽業だと思っています」

農家経営のこれからの姿——営農型太陽光発電の現場では、今日も新しい試みが続いている。

**UISOLAR**  
universe energy  
廈門宇投太陽能科技有限公司  
(UIソーラー)  
中国福建省廈門市軟件園三期誠毅大街359号704  
TEL:(86)592-5663849  
Mail:sales02@uisolar.com  
https://www.uisolarpv.com